

## コンテンツ専門調査会第三回会合に関して

2003年12月8日

日 枝 久

本日は所用のため、誠に勝手ながら欠席させていただきます。つきましては書面にて本調査会第三回会合の議題について意見を述べさせていただきます。

### 資金調達」について

#### (1)多様な資金調達の選択肢を

コンテンツ制作にあたり、資金調達は、まさに事業者の経営判断です。資金調達に多様な選択肢が用意されるということは、経営者にとって魅力的だと思います。

これまで資金力の小さかった事業者や個人が自ら資金を調達できれば、全てのリスクを負って制作から複次利用まで単独で行い全収益を手にする、「ハイリスクハイリターン」の手法を選択できるようになるでしょう。

#### (2) 資金量 = 価値」ではない

現在、製作委員会のような手法が幅広く採用されている背景には、リスク軽減だけでなく、参加する事業者が協力しあうことで、複次利用まで含めたコンテンツの価値を最大限に高め、つまり「単独では得られない効果」が期待されているからだと考えます。

コンテンツがヒットし、価値を生み出すかどうかは、あくまで、そのコンテンツの強さによるもので、必ずしも「資金量」=「価値のあるコンテンツ」とはならない、ということを議論の前提として十分認識する必要があると思います。

#### (3)全ての事業者が活用できる制度を

それぞれのコンテンツに応じた資金調達が可能になれば、コンテンツ産業全体の振興に貢献する可能性があるといえます。

「日本版完成保証制度」の創設や「信託業法」の改正など、コンテンツ制作に関わる全ての事業者にとって有効な制度を検討していく価値はあると考えます。

ただ、議論に際しては以下の2点に留意する必要があると思います。

### 自由な創作環境を守れる枠組みの確保

コンテンツ制作というものは、概して「水もの」で、当たり外れがあるものです。リスクを排除するために、出資者の側からの工程管理・予算管理を製作現場に持ち込めば、自由な創作活動にとってマイナスになるおそれもあります。運用方法については十分議論する必要がある、と考えます。

### すべてのコンテンツ事業者を対象に

資金調達を多様化する目的で導入する制度については、コンテンツ産業振興という趣旨から、業態や事業規模などを限定せず、コンテンツビジネスに意欲を持つすべての事業者を対象にすべきであると考えます。

## 海外展開」について

わが国のコンテンツビジネスを飛躍的に振興させるためには、海外展開が重要になると考えます。

### (1)独特のノウハウも必要

海外展開を模索してきた事業者の立場から申し上げますと、字幕や吹き替えを入れるだけで受け入れられるほど単純ではないと思います。国によって映像、楽曲、ストーリー展開などのテンポも違いますので、ビジネスとして成立させるためには、それぞれの国に合わせた細かい対応が大切です。

### (2)見本市などへの積極支援

コンテンツ=文化という観点から、相手国に日本文化が受け入れられる土壌を創り出していくことが重要だと思えます。ビジネス展開と合わせて海外における日本文化の紹介など政府の役割が期待されます。

海外における映画祭や見本市への支援などはさらに積極的に取り組むべきと考えます。

### (3)官民協力して海賊版対策を

海外展開を安心して進めるためには、海賊版対策が極めて重要です。相手国の政府機関などとの交渉やWTOの活用など、民間の努力だけでは解決できない課題が多く含まれています。

こうした観点からも官民一体となった力強い取り組みが望まれるところです。

以上、資金調達と海外展開について意見を述べさせていただきました。議論の御参考にしていただければ幸いです。